



ホームページ
「中野あきと」

日本共産党市議会議員 中野あきと・事務所ニュース

みどりと清流

中野あきと事務所

〒191-0041 日野市南平7-6-72

TEL・FAX 042-599-3350

発行責任者 小林 進

第138号

2013年
11月発行

しん 赤旗
ぶん

日刊紙1ヶ月 3400円

日曜版1ヶ月 800円

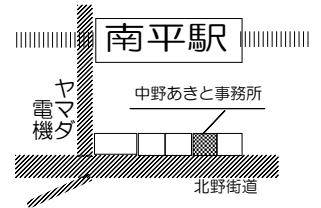
お申し込み 党南多摩事務所

TEL 042-374-4384

または中野事務所へ

法律・生活相談など

お気軽にお立ち寄り下さい



ごみ問題で大坪市長、「合意発言」を撤回 「広域化は住民合意より公益性が高い」

11月11日、東部会館で「ごみ問題の地元説明会が行われました。この中で大坪冬彦市長は、これまでの発言を180度転換させ「地元の合意（理解）が得られない」と計画は進められない」との発言を事実上撤回し、「広域化は住民の合意より公益性が高い」と、計画強行の姿勢を露わにしました。

12月議会でも予算を提出

大坪市長は「12月市議会に基本計画、環境アセスなどの関連予算提出する」と述べ、その理由として3市間の協議で「30年後の焼却炉更新では日野市以外の市が引き受け」る。「新焼却炉の建設費の負担割合をごみ処理量ではなく均等割にする」「環境対策費は2市が負担する」などが確認されたことをあげました。

会場からは「大坪市長や市の幹部は、前市長が決めたことを執行することに頭がいつぱいで何回説明会を開いても市民の声を聴く姿勢がない」「小金井、国分寺と相談する前に、市民との話し合いをしなかったことがボタンのかけ違い」などの批判があいつぎました。

「30年後に、どこの市が焼却炉を引き受けるのか」との質問には、「決まっていない」と市長が答えたことに「無責任」との怒りや失笑が広がりました。

どこに行った環境基本計画

化学物質過敏症の女性からは「子ども達のことを考え、焼却中心のごみ処理のあり方を変えろ」という立場に立って欲しい」との切実な声が出されました。クリーンセンター長は「ごみ焼却による健康被害を訴え

られたのは今日がはじめて」と、日野市環境基本計画が「人への被害が出てからでは遅すぎる」と、脱焼却を訴えていることを忘れたかのような答弁を行いました。

クリーンセンターの地元の自治会会長は、「市は、地元住民の合意がなければ前に進められない」と説明しておきながら、3月の計画書提出、6月の市民説明会と地元住民を裏切り続けてきた。予算が提出されようと断固反対の立場に変わりはない」と、地元の決意を表明しました。

11月1日、日本共産党市議団は、市長に對して住民の合意が得られていないことは明確であり、ごみ広域化計画は撤回すべきだとの申し入れを行いました。市長は住民の合意が得られていないことを認めています。ならば予算化など絶対にやめてはならないことです。ましてや市長自身が、地元の合意、市民全体の合意がなければ前にすすめることはできないと言ってきたわけで、こういう形で強行することは、市政や市長自身への信頼が根底から損なわれることになってしまいます。

「市長は自らの発言に責任を持って」「市民との約束を守れ」の声を上げ世論を広げて、きっぱり撤回へと全力をつくします。



中野あきと

短信

子どものころ、多摩川の鉄橋を渡る貨物列車をよく見に行った。石炭・材木、牛・豚・野菜、ときにはシートに覆われた大砲などを積んだ貨車が連なり、

見えていて飽きなかった▼映画化され評判を呼んだ妹尾河童さんの小説「少年H」に、貨物列車を眺めたり沖を行く軍艦の絵を描くとスパイの嫌疑が掛けられるという話がある。軍港の脇を通過する電車の窓は幕を下ろさねばならず、高所から街を見下ろすのも咎められた。軍事機密を理由に天気予報を知ることができない時代があった▼他国を侵攻することをいとなないアメリカと、一緒になって行動することに前のめりな安倍首相が、「何が秘密かが秘密」という秘密保護法案を提出。今国会で押し通す構えだ。アメリカから得た軍事情報保護のために、国民を罰する法律をつくるのだという▼まさか今の世に、昔の話を笑うことはできない。報道、議会論戦、住民活動、平和や原発運動など、全てに萎縮という影響が出ることに何より怖い。多摩川で眺めた貨物線は秘密の線路で、地獄にさえ載せられていなかった。今、その線路の上は、横須賀線の電車が疾走している。(K)

《日本共産党市議団》2014年度予算編成に対する要望書提出

丘陵地の防災対策、国保税の値下げ、ミニバス路線の拡充など

予防重視の防災計画・丘陵地対策の強化。

◎応急対策と共に予防対策を重視し、広く市民の意見・要望を反映し「日野市地域防災計画」を抜本的に改める。

◎多摩地域で切実な大規模造成地の宅地耐震化、住宅の耐震化対策は、都・国の「防災計画」ではきわめて不十分なものになっている。市だけでは対応できない震災対策の課題を整理し、都・国に急いで対策を要求すること。そのため可能な独自調査も行う（台風26号で被害を受けた三沢地区のような丘陵地のミニ開発についての対策も合わせて要望しました）。

ガン検診は無料に戻せ。国保税の値下げを。

◎平成23、平成24年度の国保税実績は、18%値上げの根拠となった予測を大きく下回っている。実績に基づいて保険料算定をやり直し引き下げる。

◎有料化したことにより受診率が下がったガン検診は、無料に戻す。

高齢化社会に対応するミニバス路線、ワゴンタクシーなど、市民の足の確保を。

住民合意のないごみ広域化は撤回を。

10月23日、日本共産党市議団は、来年度予算編成に対する要望書を大坪冬彦市長に提出しました。日野市でも「行政改革」の名のもとに、教育や福祉、市民サービスの切り捨てが行われ「住民福祉の増進」という地方自治法の原点に立ち返った市政の転換が求められています。日本共産党市議団は、これまで市民の皆さんから出されている意見・要望の解決を求めて、特に重視すべき53項目を市長に提出しましたが、その主な内容をお知らせします。

えっ、40年かけて改修...?

生活道路改修にもっと本腰を!

継ぎはぎだらけで危険が指摘されている生活道路の改修はどうなっているのか。市はこの間、傷み具合を調べる路面性状調査を行い道路改修計画を策定しています。調査を行ったのは市内認定道路の総延長約456kmの28%にあたる128km。「概ね良好」のAランクが約78km、「損傷が進行し補修対象にすべき」のBランクが36km、「損傷著しく補修が必要」のCランクが13kmとの調査結果が出ています。補修計画はBランクとCランクが対象で総額72億円ですが、年平均予算は1億8000万円、40年間かけて実施することになっています。その一方で市は、旭が丘の東芝跡地

の巨大物流センター建設計画に対応した新しい道路の前倒し整備に前のめりになっていきます。この道路計画は、昭和36年に都市計画決定された旭が丘から西平山に至る市道で、JR中央線の電車区の端を跨線橋をつくって通すことになっていて、跨線橋の整備を中心に20億円以上の予算が必要だといわれています。計画策定から50年以上たつたいま、はたしてこの道路を新規に整備する必要があるのかどうか、慎重な検討が必要ではないでしょうか。市民生活に密着した道路の改修やバリアフリー化には40年かかるという状況こそ改めるべきです。

中野あきこ



◇◇ミニ・ニュース◇◇

■…日野市立七生緑小学校は、10月13日NHKホールで行われた第80回NHK全国学校音楽コンクールで金賞（日本一）に輝きました。コンクールでは全国965校から勝ち抜いてきた代表11校が出場し演奏しました。

■…中野あきと市議を助言者とする区画整理懇談会が10月26日、東・西平山地域および豊田地域それぞれで開催されました。地域住民へ大きな影響を及ぼす巨大物流センター問題や地域の要求をまとめて日野市へ提出した「要望書」についても話し合いました。

■…南平のイゲタヤ前を南北に走っている道路で京王線下のアンダーパス部分の一部から水が漏れ続けています。市に確認したところ、水抜き穴のフィルターが詰まっていた、近々にフィルターの取り替えを行い、その上で道路脇に水を流すための側溝を整備することを検討しているということでした。冬になれば、路面の凍結も心配されます。早めに対策を講じるよう要望しました。（中野）

《2013年 12月の無料法律相談》
市役所6階 共産党控室 午後1時～3時
12月 12日（木）
※予約が必要ですので、お申し込み下さい。

「感想・意見を
お寄せ下さい。」